

【1】大学ではどのように学習するか・解答例

＊この課題は、面接でこの数年質問頻度のトップにある「大学入学後、何をしたいか」という質問と対応しています。大学では高校までと違い、与えられた知識を吸収し求められる答えを導く学習態度ではなく、自分で主体的に学問・研究に取り組む姿勢が問われます。

また、これから自分が進む道でのキャリア形成に必要なだが、講義では得られない知識や経験を主体的に得るために「何をするか」も自分で考えなければなりません。まず、学問への取り組みの姿勢を転換し、大学で自分がどのような学問をし、それを基盤にどのような人生を切り拓こうとしているのか、しっかりまとめておいてください。

設問 グライダーにエンジンを搭載したような「グライダー兼飛行機のような人間」になるためには、あなたは大学でどのように学習すればよいと考えますか。600字以内で述べなさい。

解答例

大学ではまず、基礎的な知識をしっかり身につけたい。それは教科書や講義、あるいは実習などで先生や先輩の指導の下で身につけることになる。ここではまだグライダーだが、その中で常に学んだことの一步先への疑問を持ち、課題としたい。医学は常に未解明な分野を残している。何がどこまで分かっているのか、常にそれを意識しながら「問い」を見つけるのである。しかし、その問いに答えていくためには、すでに解明され、理論として確立されている知識をしっかりと自分のものにしなければならない。それが十分に消化されていなければ、それから先の問いに答えられるはずはないからだ。

したがって、まずは必須とされる講義や実習に全力で取り組もうと思う。そしてその中で「問い」を蓄積していくのである。そこが飛行機能力育成の出発点だと思う。

自分に「問い」に向き合う一定の基盤ができたなら、蓄積された「問い」の中で、最も取り組みたい課題を一つ設定し、時間を作って自主的な取り組みを開始する。その「問い」に答えている資料はあるか。なぜそこで研究は行き詰っているのか。とりあえずそこまでは自分で探求してみる。本格的な研究に取り組むのは学部を卒業した後になるだろうが、学部時代から、このように積極的に未知にチャレンジしていく習慣をつけることが、飛行機能力を養うことにつながるはずだ。

参考類題・信州大学医学部 2009 年問題・解答例

文章を参照の上、大学入学後はどのような姿勢で勉強していくべきか、あなたの考えを 600 字以内で述べて下さい。

課題文のポイント

- ①大学は研究と教育の場であり、世界に内在する真理を探究し、真理を発見し、伝達することが使命。
- ②研究者の仕事とは「まだ分かっていないことを人に分かるようにすること」。
- ③教育者の仕事は「すでに分かっていることを人に分かるようにすること」。
- ④大学での教育の目的は、学生に「考えさせること」。
- ⑤「馬を水辺へ連れて行くことはできるが、水を飲ませることはできない」。
- ⑥研究は本来水を飲むように、自発的に、そして主体的に行うもので、他人が外から動機づけはできない。
- ⑦これは、自然のならいに反する研究と教育の深刻なディレンマ。

問い＝学生の立場として、「研究と教育のディレンマ」をどのように考えるべきか？

⇒自発的、自主的に学ぶとはどういうことか？

(解答例)

「研究と教育のディレンマ」とは、言い換えるなら学生自身の学問に対する主体的取り組みなしに教育は成り立たないということである。学問とは「分かっていないことを分かるようにすること」である。そして学生とは、まだ研究者ではないが研究の場である大学に身を置き、そこで学問に勤しむものである。

このように考えると学問への取り組みは、「分からないこと」、分かっていないことについて、しっかり自覚することから始まるといえる。「分からないこと」を知りたいから大学に入るので、まず自分が何を知りたいのか、自らの学問のテーマを自覚すること。例えば、私は人間の苦しみの根源を知りたい。しかし、このテーマは「人間」という存在を知りたいということと同じで、それを学ぶためには膨大な学問の裾野が広がっている。まずは痛みや不快について人間のフィジカルな面を追求することから始めるために医学を学ぼうとしている。ただこれは私の学問のテーマであり、現実的には「分からないこと」でも対処する実践は欠かせない。医学はその両面の要求を満たしてくれる学問だといえる。

学問を追求するためには、すでに「分かっていること」を広く学ぶ必要がある。ともかくは、テーマを明確にしつつ、先人が残してくれたものを吸収すると共に、その先にある「分からないこと」が何であるのかを知ることが学問の第 1 ステップだと考えている。